

# 黄昏

On Golden Pond

観賞日 2018・3・26

制作 1981年 米国

上映時間 109分

監督 マーク・ライデル

原作 アーネスト・トンプソン

脚本 アーネスト・トンプソン

出演 キャサリン・ヘップバーン(エセル・セイヤー)、ヘンリー・フォンダ(ノーマン・セイヤー・ジュニア) ジェーン・フォンダ(チェルシー・セイヤー・ウェイン)

## 【あらすじ】

ゴールデンポンドという湖の別荘にやってきた老夫婦、ノーマンとエセル。そこに、長らく訪ねてこなかった娘のチェルシーが新しい夫のビルと連れ子のビリーを伴ってやってくる。ノーマンとチェルシーは実の親子でありながら昔から仲が悪い。チェルシーはこれからヨーロッパに新婚旅行に行くといってビリーを置いて旅に立つ。

ノーマンはエセルの勧めでビリーを誘って湖に釣りに出かける。やがて、魚釣りも回数を重ね、頑なであった2人が徐々に心を開くようになる。新婚旅行から戻ったチェルシーはそんな2人を見て驚くとともに、自分も父親との確執を解きたいと思うようになる。子供のころできなかった、バック回転跳び込みを試み成功し父親の喜ぶ顔を見た時、確執は氷解し二人はようやく普通の親子になった。

## 【解説】

本作では親子の確執と和解がテーマになっているが、背景には本作の父親と娘を演じた、ヘンリーとジェーン親子の確執と和解がある。

ジェーンの母親はヘンリーとの離婚後、精神を病んで自殺。残されたジェーンと弟のピーターの前半生はまさに父親との戦いであった。

そんなジェーンが舞台の名作の映画化権を買い取ってプロデュースしたのが本作品である。

過去の恩讐を乗り越えて、主役に父親のヘンリー、母親に名優キャサリン・ヘップバーンを配し、自らも娘役で出演。見事、念願のアカデミー主演男優賞を父親にプレゼントした。なお、ヘンリーは本作が遺作となり、翌年子供に見守られながら静かに息を引き取った。